

閉校式（３月１８日（金）） 校長式辞

私たちのふるさと、遠野の空はどこまでも青く、広がる山々はとても優しく、流れる川は清く、吹く風はさわやかであり、あちらこちらに、新しい春の訪れを感じております。

ここ遠野高等学校において、地域の皆さまとともに、七十四年にわたって生徒も教職員も笑顔の花を咲かせてまいりました。

本日、遠野高等学校閉校式・お別れ会に、県教育委員会高校教育課、同窓会、PTA、部活動後援会をはじめ、たくさんの地域の皆さまに御臨席を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、日頃の本校の教育活動への御理解と御協力について感謝申し上げます。

伝統ある遠野高等学校の幕を閉じるに当たって、遠野高等学校の思いをしっかり引き継ぎ、統合校として新たに発足するいわき湯本高等学校へつないでいきたいという願いを込めて、同窓会の皆さまとともに、本日の閉校式・お別れ会を計画・準備してまいりました。

では、引き継ぐべき、遠野高等学校の思いとは、何でしょうか。それは、遠野高等学校に対する地域の皆さまの熱意や深い愛情、このことに対する生徒・教職員の感謝の気持ち、地域に根ざした学校という温かさ・優しさであります。

今般の感染状況を踏まえて、基本的な感染症対策に加え、参加者の限定、式典内容の精選、時間短縮等、規模を縮小しての実施となりましたが、本日の閉校式・お別れ会を通して、こうした遠野高等学校の思いが参加者一人一人の心に届き、あちらこちらで笑顔の花となって、今後とも咲き続けることを願っております。

閉校式については、校長式辞に続き、同窓会長より母校への思いをお話しいただき、お世話になった地域の皆さまの代表の方々に感謝状を贈呈した後、生徒会長によるお別れの言葉及び校旗返納をもって、式を結びます。

お別れ会については、生徒会による、遠野高等学校七十四年の歴史をまとめたスライドショーを行い、第二十三代校長より学校の思い出をお話しいただいた後、校歌を参加者全員で歌い上げ、会を閉じます。

閉校式とお別れ会の間には、参加者間で交流を少しでも深めることができるよう、短い時間ではありますが、懇談等の時間を設けております。また、会場後方のパネルや壁面に遠野高等学校へのメッセージや七十四年の歩み等を掲示しておりますので、御覧ください。

今年度は、遠野高等学校として最後の一年であり、統合校開校の一年前でもあることから、特別な一年となりました。伝統ある遠野高等学校から新しいいわき湯本高等学校へ。この二つの高等学校の歴史をつくるのは、生徒・教職員一人一人の頑張り。合い言葉は「ネクスト・ジェネレーション!」、遠野高等学校からいわき湯本高等学校へ「つなぐ・つなげる」。

地域の皆さまの御支援と御協力を賜りながら、生徒・教職員一丸となって、日頃の学習や、部・同好会活動、委員会活動、ボランティア活動等はもちろん、遠野和紙継承プロジェクト、T-P a Iクラブ、ドリル学習、朝の読書など、遠野高等学校ならではの特色ある学びに全力で取り組んでまいりました。

あかさか祭、マラソン大会、球技大会、百人一首歌留多大会等、今年度で最後となる、三つの学年がそろって行う学校行事について、感染症対策を徹底しながら実施することができ、よい思い出をつくることもできました。

十一年連続で進路実現百パーセントを達成し、同窓会入会式及び卒業証書授与式において、自分で漉いた遠野和紙の卒業証書を手に、最後の卒業生を送り出すことができました。

同窓会の皆さまと力を合わせ、学校の歩みを一つ一つ掘り起こしながら閉校記念誌としてまとめるとともに、正面玄関脇の校歌碑に学校沿革を刻むこともできました。

これらのさまざまな取り組みを通して、遠野高等学校は地域とともにある学校であるということ、遠野高等学校の生徒・教職員は地域の皆さまに深く愛していただいていることを実感し、胸を熱くすることが何度もありました。

この感謝・感激・感動の気持ちについては言葉を尽くしても尽くしきれませんが、こうした遠野高等学校の思いをしっかりと引き継いでいきたいと、生徒・教職員一人一人が強く感じているところであります。

同窓会、PTA、部活動後援会の皆さまをはじめとする、地域の皆さま。

遠野高等学校に対する、これまでの御支援・御協力について、厚く御礼申し上げます。

今後は、遠野和紙の卒業証書も含め、遠野高等学校の思いを引き継ぐいわき湯本高等学校をよろしくお願いいたします。

生徒・教職員の皆さん。

四月から、ここ遠野の丘の学び舎は、いわき湯本高等学校遠野校舎となります。

ともに湯の岳を仰ぎ見る、三函の丘のいわき湯本高等学校本校舎に集う、生徒・教職員の皆さんと力を合わせ、遠野高等学校の思いをしっかりと引き継ぎ、いわき湯本高等学校という新しい学校の歴史をつくっていきましょう。

いよいよ、お別れの時です。

私たちの愛する遠野高等学校。

七十四年間、ありがとう。

未来に向けて、さようなら。